

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ワイワイキッズLabo		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49	(回答者数) 49
○従業者評価実施期間	2026年1月1日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援管理者だけでなく、支援に関わる職員で毎日ケース会議を行い、情報共有をしている。そのため、チーム全体で連携をしながら支援内容に対して一貫した支援を行うことができている。	個人ファイルに個別支援計画をはさみ、何を支援すればよいか常に意識できるようにしている。また担当した職員が気付いたことを記録し、次の支援や中間評価の資料として活かしている。	記録を残し、毎日のケース会議が効果的に実施できるようにしていく。
2	すべての職員が関わる中間評価を実施し、6か月ごとにアセスメントを取り直して利用者の現状や課題を整理し個別支援計画書を作成している。	ムーブメントのMEPA-Rを参考にアセスメントを取り評価に役立てている。令和7年度は感覚統合についての職員研修を2回実施した。	現場での対応力を高め、より効果的な支援の提供を行うために、さらに、外部講師を招いての勉強会や研修を開催し、職員の知識やスキルの向上を図っていく。
3	個別支援計画を作成する際、保護者の方が日常生活の中で目標をイメージしやすいように工夫しており、日常生活動作(ADL)や運動面の目標を立案するようにしている。	ことばと運動を通してやりとりを支援している。特に幼児期の身体の発達を効果的に支援するために理学療法士を中心としてADLの評価を行っている。	ADLの評価や、MEPA-Rなどのアセスメントを保護者の方にも理解しやすいような形で提示していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者が参加できる研修の機会や、他の保護者との交流の機会が少ない。	茶話会を実施したところ日程が合わず参加できないという意見もあった。	茶話会などの機会を定期的に設け保護者同士の交流の場を増やす。また保護者が気軽に意見交換ができる場を提供し、事業所と保護者の信頼関係を築き、家族の困りごとやニーズを伺って今後の支援活動に活かしていきたい。
2	支援プログラムの内容や、実際の支援の様子について保護者に伝わっていないことがある。	公式LINEを十分に活用できていないことと、保護者の方がワイワイキッズLaboのホームページを見る機会が少ないことだと考えられる。	公式LINEで支援の様子を個別に発信していくとともにICTも導入していく。ホームページを見る機会を増やしてもらえようような関わりをしていく。子育てサポートを取り組みを周知し、支援の様子を見学しながら説明する取り組みを続けていく。
3	業務がアナログなところが多く、作業効率が悪い。	効率化に向けてICTを導入中であり、一時的に作業量が増える可能性がある。	ICTを活用するメリットと、従来の紙ベースでの作業のメリットをうまく組み合わせながら併用していく。